

ななむら

第124号

発行：照来地区公民館

責任者：館長

☎ 92-1738

令和7年10月1日現在

世帯数：519世帯

人口：男 610人

女 700人

計 1,310人

『ぐるっと照来! スタンプラリー』開催!

10月13日(月)「ぐるっと照来! スタンプラリー実行委員会」主催による『第4回ぐるっと照来! スタンプラリー』が雨模様の中開催されました。

今年の参加は、4歳から70歳代の方まで総勢70名でした。雨が時折強く降ったりする悪条件ということもあり、途中リタイアする方が多いと予想したのですが、何と68名の方が完歩されました。それもリタイアした2名は先日自然学校に参加していて体調が万全ではない中参加してくれていた子どもたちでした。

(後で先生に聞きましたが、自然学校は結構きつかったそうです。)

このスタンプラリーは、照来地区の皆さんの健康増進とふれあいの場づくり、そして照来を巡ることにより照来の魅力を再発見していただくことを目的に開催していましたが、今年は、照来以外からも参加できないかという意見もあり、温泉地域にも募集チラシを配布しました。結果、照来以外から21名の方が参加されました。

参加者の皆さんの安全を考えれば中止にしようかと非常に悩みましたが、天気予報も回復の予報だったため開催に踏み切りました。しかし、雨の止み間も少なくあまりいいコンディションとはいえませんでした。

参加された皆さんは、この雨の中ですから照来の景色も見る余裕もなく楽しむ間もなかったのだと思います。それでも、一生懸命に歩いていただいて、途中見回りに行った際には笑顔が見れたのは救いでした。

(序盤だったことありますが) 参加された皆さんに感謝したいと思います。

何はともあれ、この雨の中無事故も無く終えることができたことは良かったと思います。これもスタッフの皆さんが大変よく動いていただき、各区の公民館ではテントを張っていただく等色々工夫されていました。照来以外から来られた方への「おもてなし」ができたのではないかと思います。感謝です!

そして、この度も開会式、スタート・ゴールの会場を快くお貸しいただいた長谷坂縫製さんには心から感謝申し上げます。



「照来ふれあいフェスティバル」が開催されました!

10月12日(日)「スポーツクラブ21照来」主催により『照来ふれあいフェスティバル』が、こちらは天候に恵まれ開催されました。やっぱり事務局長の普段の行ないの差でしょうか。

参加は一般の部に18チーム、小学生の部に4チームの合計22チーム約150人がグラウンドゴルフを楽しみました。

この大会は非常にレベルが高く、本部にいと「16打?ということは1ホール2打?すごいな!」といった声が聞こえてきました。それも、1人ではなく何人もです。

結果

【地域の部】

優勝 丹土
準優勝 桐岡
第3位 多子
第4位 塩山
第5位 中辻
第6位 飯野

【一般の部】

優勝 丹土親睦会A
準優勝 桐岡エース
第3位 塩山大橋
第4位 多子A
第5位 丹土親睦会B
第6位 多子B

【小学生の部】

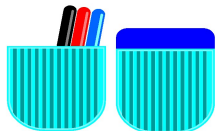
優勝 チームいいしおのやま
準優勝 オイゴ・ソラーレ
第3位 丹土グランドゴルフーズ
第4位 桐岡ドラゴリ
※出場4チーム



～照来の小さな文化祭～

『作品展示会』

- 日時：11月15日（土）9：00～16：00
11月16日（日）9：00～16：00
- 場所：照来小学校体育館
- 内容：絵画、手芸品、詩歌
書、写真等の展示ほか



同時開催

『照来っ子フェスティバル』

- 日時：11月15日（土）

9：00～11：30

『ニュースポーツ大会（ボッチャ）』

- 日時：11月16日（日）

13：15～15：00

※場所はどちらも照来小学校体育館

地域が果たす役割

何のために文化祭や地域行事を行なうんだろう？
と思うことがあります。

ある民俗学者によると、一言で表すなら、“結集”
だと言います。行事を通じて土地の人たちを結集さ
せ、地域を一つにまとめることだと。

ただ、こうした行事は毎年やるため、マンネリ化
して飽きてきます。それならやめるかという「や
めない、やめられない」やめてしまうと、その地域
はその地域でなくなってしまう。

でも、誰かがやらなくては・・・。



「照来の民話紙芝居」も予定

照来っ子フェスティバルの途中か、終了後にな
るか決めていませんが、「照来の民話紙芝居」
を予定しています。今回は、多子の「くぐり池」
です。

通常の紙芝居だと後ろ
の方は見えませんから、
スクリーンに映し出して
行なおうかと思っています。
是非ご覧ください。

（イラストは「但馬の
百科事典」から。）



照来の歴史（78）丹土『高尾山城址』

丹土の方から、今月高尾山の調査に入るとお聞きしました。この高尾山は丹土の西南にあり、名前の付いている山では照来で一番高い山（870.4m）とされています。古文書によると、この高尾山中腹にはお城があったと伝えられています。調査の結果が楽しみです。

「二方考」丹土村の記には、『昔平氏繁盛の時、高尾山に城ありしといい伝う。今その跡と称するものあり。その他殿屋敷等とて古城跡あり』と記しています。

また、「丹土史」には『丹土の東南高尾山の中腹、俗称、鶴谷頭にあり、東西凡そ18間（36m）南北18間（36m）面積324坪（1,296㎡）約1反歩余、平家の全盛時代に礎をつくった平清盛の親、忠盛の一族櫓太郎（矢倉太郎ともいう）が長承年間（1132～1135）に築城したと云われている。城郭の形態から推測して城というより現代的に云えば監視所程度の建物で、しかも掘建式のように感じる。即ち、城跡から何一つ礎石のような物件も発見されず、それらしい痕跡が見当たらない。只、約1反歩余の小面積ではあるが、平坦な屋敷跡であったことは判然としており、城の頭とか城の橋とか称して現今も通っている。往年この地を掘り起こし武具一式を得て熊野神社の社殿の北西部の空地に埋めてあると云い伝えているが、掘り起こして見ても果たして埋蔵してあるか否かは疑問である。一説によると、掘り返しにかかるると体に震えがきて途中で中止したとも云われている。

尚、城跡に行く途中に五輪塔一基が建っていたが、それも心許ない一青年の悪戯で谷間に蹴落とされてその姿は見当たらない。戦時中は婦人会の茅場として炭俵の材料として刈取られていたが、現在は雑木等が大きく生い茂っていて、その面影は全くない。』とあります。

櫓太郎は、長承年間に本覚寺という一寺を建て薬師如来を中心とする三尊を安置し、文武両道の修験道場としたとも記されています。現在、その三尊は丹土の薬師堂に安置されています。

